

【特徴】

脳神経外科とは、脳、脊髄、末梢神経を含むすべての神経系およびそれらに関連する骨、筋肉、血管などの疾病の予防、診断、手術を含む総合的治療、リハビリテーションなどに積極的に関与する医療専門領域である。この中で小児脳神経外科が担当するものは、出生前もしくは小児期に発生する疾患である。小児期に発生しやすい先天性疾患に加え、成人期と同じように、腫瘍、血管障害、外傷、機能的外科疾患、脊推脊椎外科疾患などがある。小児期に特徴的な疾患が多いため、成人例との違いを理解し、診断及び治療に当たる。

【研修目標】

1. 一般目標

小児脳神経外科領域における理学的所見や補助検査によって診断し、それに対する治療法の選択枝についての情報を患児や家族に適切に提供することができる。インフォームド・コンセントを得ながら、基本的な疾患では主体性を持って診断・治療を行える能力を身につける。

2. 行動目標

- (1) 小児期の理学的所見、神経学的所見の取り方を理解し実践する。
- (2) 検査、採血などの必要性や副作用の説明を患者や保護者に説明でき、検査のインフォームド・コンセントを得ることを理解し実践する。
- (3) 採血や血管確保が行え、鎮静が必要な検査を理解し実践する。
- (4) 単純X線像、CT、MRIなどの小児期の画像検査の読影を実践する。
- (5) 小児の周術期の管理法の修得、小児薬剤の効能、副作用を理解する。
- (6) 水頭症など小児期の頭蓋内圧の管理の特徴について理解し実践する。
- (7) 主な疾患について、病態を理解し基本的な治療方針を理解する。
- (8) 穿頭術、髄液シャント手術の適応や緊急性、合併症について理解し実践する。
- (9) 担当医として治療方針の決定の過程を理解する。
- (10) 全身麻酔下で行う脳血管撮影の基本手技を理解し実践する。
- (11) 種々の治療法の中で治療法を選択する基準を理解する。
- (12) 各疾患における手術適応や緊急性を判断できる。
- (13) 疾患の治療方針を保護者に説明でき、患者や保護者からインフォームド・コンセントを得ることを理解し実践する。
- (14) 基本的な手術を指導医と共に行い、手術用顕微鏡を必要とする手術、神経内視鏡を用いた手術などの助手として手術に加わり、手術法を理解する。
- (15) 経験した臨床症例、治療成績を学会発表、論文作成を行うことにより、科学的な思考能力を養う。
- (16) 脳神経外科専門医、脳血管内治療専門医を取得するための要件を満たすように努力する。

【方略】

- (1) 指導医の元で治療計画、臨床経過、評価などを診療録に記載する。
- (2) 脳神経外科手術を指導医と共に行い、手術の指導を受ける。
- (3) 救命救急センターと連携して急性期の小児脳神経外科疾患の診断・治療を行う能力を養う。
- (4) 脳血管内治療専門医の指導のもとに、手技を理解する。
- (5) 年間2回以上の学会発表と、1篇以上の論文執筆を目標とする。

【評価】

上記の行動目標について自己評価を行い、かつ指導者からの評価を受ける。

【研修プログラム】

1年目（卒後3年目）	2年目（卒後4年目）	3年目（卒後5年目）
小児脳神経外科にて研修 （脳神経外科を含む）	小児脳神経外科にて研修 （脳神経外科を含む）	小児脳神経外科にて研修 （脳神経外科を含む）

※ シニアレジデントも同様

【見学等問い合わせ先】

小児脳神経外科部長 松坂 康弘